



おちほ

第48号 平成16年3月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

あけまして、おめでとろごぎめませ



二〇〇四年一月一日元旦、今年も新しい年が始まりましたが、寮生さんにとっては、いつもと何ら変りのない朝でした。

いつもと違う点と言うと朝食がおせち料理くらい……。おせちをペロリと完食し、お正月と言う事で朝から初詣をかねてドライブへ。行き先は、甲南町にある矢川神社と言う所に行きました。神社にて、みんな思い思いにお参りをしてきました。帰る際に風船をくばっており、章仁さんが一番にゲット。おまけでもう一つ頂き佐山さんに。風船をもらいニコニコだったのですが、さあ帰ろうと歩き出した所でハプニングが発生！！ 駐車場近くの松の木に持っていた風船があたり、すごい勢いで「パーン」とわれたのです。その音に「同ビツクリ！！」しかし江竜さんだけが大笑い。それにつられてみんな大笑い。今年の初笑いでした。昼食は、マクドナルドでハンバーガーを買い、高間水辺公園にて青い空のもとで食べながら、いつもの違う雰囲気笑顔もこぼれ、楽しい昼食となりました。ドライブや大スキな物を食べ、楽しいお正月になりました。

昔今ふく

全力投球し、人には親切をつくした
天津肇さんのことには

理事長 増田正司

天津さんの思い出すべてを語ることはできないが、今はしみじみと若い日の一端を偲んでみたい。

昭和二十四年秋、近江学園にもぐりこんだ僕は青年男子の指導拠点の「一麦荘」で園生と寝起きをともし、先任の天津さんや矢生長兵衛さんの指導で実習見習をすることになった。瀬田川沿いの丘の上に建つ学園で初めての秋冷の朝、6時半起床がなかった。職員も園生もきびきびと朝の日課をこなしているが僕はどうしてよいやらお客さんのようにたたずむばかりだった。一週間ほどは長兵衛さんの尻について農場の草むしりに汗を流し、自分なりに充実した一日が終わった余暇（秋の夜長）に天津さんたよりに時間を過ごした。若い者同士の尽きぬ語り合いだ、僕には有意義な時間だったが、天津さんには迷惑千万だったかもしれない、しかし実に懇切丁寧に話してくれ未知不安の日々をおくる僕を励ましてくれた。そうした話し合いは、天津さんの退職でひと月後に終わり、新米の僕が天津さんの仕事の後継ぎになったのだ。豚君の給餌に残菜や魚のあらやその他の肥料を混ぜて煮あげる釜に指を入れ、塩加減や煮具合をたしかめるため自分の口にその指をい

れている天津さんをそばで見ているとびっくりしてしまった。また豚君の生育に必要な栄養源を求めて、大津の魚業組合まで20kmの距離を一箱10kgの魚のあら二箱を自転車で積んで帰る重労働を月何回か平然とこなしていた。そう大きくもない身体で体当りする実践や情熱は驚嘆するばかりだ。渾身の力をそそぎ、経験学識ともに未知の分野に必要な学問知識を求め同業の現場を見学研究し精進する姿が眼前に現われてくる。退職後も再々現われ指導助言してくれた、ますます敬意と友情が深まっていった。天津さんの体当りの実践や情熱に励まされ、僕は福祉の道を進むことになったと思う。

生前、近江学園をはじめ数ヶ所の知的障害施設の主宰者としてまた福祉系大学で人材養成につくし、いつも全力投球の体当りの実践に心がけ、人には常に懇切丁寧骨身惜しまずつくしたのが、その東奔西走の連続が身体を痛め寿命をちぢめ、力つきて帰らぬ人になってしまった。まだ元気で後進の指導に力を貸してほしかったのに残念でたまらない。目を閉じれば元気な頃の姿が浮んでくる。いつまでもの平安を心からお祈りしたい
(平成十六年一月二十日記す)

昔今ふく



寮長 山下陽一

ごごいおり

私たちは発達障害を持った男女五〇人の日常を支えながら生活しています。

発達障害があるといっても、その様子は一人ひとり様々で体験を広げる支えは何が適なことなのか、見極めるのが難しい場合が多々あります。障害がなく普通に様々なことを身につけてゆく人たちは、大まかな順序がほぼ決まっているようですが、私たちが生活を支えている人たちはこの順序がなかなか見えてこない場合があります。

ことばは二歳半で五〇〇語前後、三歳児で一〇〇〇語近くことばを使うことができるといわれていますが、ことばだけではなく認識・動作など広範囲にわたり発達が停滞してしまつたなら今はたしてどんな世界に見えているのでしょうか。社会との関わりあいにおいては一般の二〜三歳では身近な人たちと、主にお母さんとご本人との関係が生活の基本にあつてそれ以外の周囲は彼らにとつて不安に満ちた世界にはイチモクサンになつて向かいますが、道路に出るとトラッ

クがスピードをあげ走っているなど危険な場所だと十分理解できていない危なさも持っています。

この時期は心理的発達段階において、まだお母さん又はその役割を果たす人との関係が重要な側面を持つています。落穂寮はそんな人たちが集団で生活しています。こんなことから、一番してほしいことは何かと聞くと全員が「お母さんのいるうちへ帰りたい」と答えるでしょう。これは自分のすぐ傍に安心がある生活を送りたいという切実な願いともいえます。

世界中が寄つてたかつて

去年の十二月二日、イラクで二人の日本人外交官が殺害されました。この報道に前後して、ご遺族が現地の確認のために移動される報道の中に、井ノ上書記官の長男 鼓太郎ちゃん(二歳)のあどけない姿の報道に涙された人たちも多かったことと見えます。鼓太郎ちゃんの様子を見てみると二歳児の発達の様子をよく現していると思えました。

鼓太郎ちゃんはお父さんの留守家族の内の認識しかないでしょうから、お父さんが仕事先でどんなに遇つたのか知りようもないし、

説明のしようもないことでしょう。まったく、二歳の鼓太郎ちゃんに世界中が寄つてたかつてなんといふことをしたのか、怒りと悲しみで肺腑がむしり取られる思いがします。空港での見送りの人にまた郷里での葬儀のかれのキヨトンとした様子は周囲の一層の涙を誘うものでした。ご遺族を慰めることばは何だろろうかと思えます。

愛する人に歌わせないで

今から約三十年前ベトナム戦争がありました。その様子が次々とテレビ報道されお茶の間まで流されました。世界中がその行方をかたずをのんで見ていましたが、結局アメリカ政府は世界中の反戦の熱いうねりの力に屈して旗を降ろさざるをえなかつたのです。そのとき日本でも各方面に渡り反戦の折りが様々な形で生まれました。今の若い世代のひとたちがどの程度ご存知なのか知りませんが、こんな歌が生まれました。

もう泣かないで坊や
あなたは強い子でしょう
もう泣かないで坊や
ママはそばにいるの
あなたのパパは強かつた
とてもやさしかつた
だけども今は遠い
遠いところにいるの

夫を戦場で失つた妻と遺された坊やの悲しみの歌はまだ続きます。「……兵士として行くその日までも無事に帰ると約束して出かけていったのに……」

「愛するひとに歌わせないで」は一九六〇年代の終わりころだと思えますが、森田公一が作り、山良子が哀切とため息を込めて唄いました。

涙をぬぐつて

今、三十年前のこの歌のように、世界中の鼓太郎ちゃんとかれのお母さんのような境遇の人たちを慰めることができる誰かが現れないかと願っています。

移動の途中の報道ビデオの中に遺族のおひとりぐぬいぐるみの人形をもつてバスから降りてこられるカットがありました。これはおそらく二歳の鼓太郎ちゃんが肌身離さず持つている大切なものなのでしょう。発達心理では「心の杖」というそうですが、これを抱える元氣と勇気ですが、これを抱たつたひとりででも少し怖くて目標に向かつてイチモクサンに向かうことができる潜在パワーの素となります。

また、寝覚めに自分の思っていることと違つて大泣きをして家族を困らせることがよくありますが、どんな悲しい事もひと泣きして涙をぬぐうとそのことを後に引きずることもなく呼吸を整えて立ち直り、新しい気持ちになつて次に歩みだすことができる子どもたちでもあります。

※ ゆく年〜男子棟忘年会

―今年もごくろうさま―
去年の事になります。十二月十四日に男子棟忘年会がありました。

この日は午前中から大忙し！行事担当の職員は昼食の材料の準備をし、それ以外の職員は寮生さん達と忘年会会場となる体育館の会場準備。じゅうたんを敷いたり、テーブル、イスを運びました。寮生さんも準備中から手伝ってくれました。準備中から喜んでいる寮生さんもありました。待ちきれないみたいです。
お昼になって全員体育館へ移動。みなさんテーブルに座って、いよいよ忘年会が始まりました。忘年会のメニューは鍋。ちゃんこ



▲できるまでまぢましょ〜



▲笑顔で今年もおしまい

休日の後はおやつづくり。今回は焼きそばパンで、そのまま三時のおやつもそこで食べました。今年も寮生さん、職員と全員参加できてとても楽しかったです。一年間、ごくろうさまでした。



▲さあ、食べましょう

※ くる年〜女子棟新年会

「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。」という事で今年も一月十五日新年会に行ってきました。年末年始は何かと飲んだり食べたりする機会が多いのは世間も落穂寮でも同じ。さて、お正月の帰省で体重増が心配な寮生さん達と八日市の中華料理のお店「不屋」へ。石部を出て八日市に着いてみるとなんと雪が積もっています。バスから降りた寮生さんも目をパチクリ。バスで一時間ほど移動しただけでこれほど気候の変化があるのかと変なところで感心してしまいました。さてさて、お店に入ると一番奥の広いお座敷へ。寮生さん達はすでにこのお店の常連さんで迷わずお座敷に入って席に着いていきます。そこへ次々と運ばれて



▲よーい、ドン!!

くる料理、料理、料理。あつという間にテーブルが一杯になってしまいました。メニューはから揚げ、酔豚、五目焼ソバ、チャーハン、エビチリ、春巻、ギョウザ、デザートにゴマ団子。これがボリュームたっぷりに出てきます。みなさんも想像してみてください。どれもこれも油っこい料理で食べると顔が油でテカテカ光り出してしまう。さすがの寮生さん達も何名かは「もう食べられない」とギブアップ。みなさんお腹いっぱい大満足の新年会になりました。今年の寒い冬もたっぷり油分を吸収し切ってください。みなさん健康に乗りかたありそう。今年も女子棟です。みなさん今年もよろしくお願ひします。



▲見よ！ このボリューム！

石部中交流会 Part II

前号で紹介しました石部中交流会の後半分が十月十六日に行われました。一回目とは違った体験ができ、中学生にとっても収穫の多いものだったようです。ここにほんの少しですが御紹介致します。又、来年度も実施できたらと思います。ごくろうさまでした。

村松 瞳

十月十六日は、ほんとうにありがとうございました。私はこの障害者の人との交流のおかげで知らなかったこととかが分かってとても勉強になりました。最初は、はつきり言うてどんな人がいるのかとか、何かされへんのかなあとか思っていました。でも実際に、そんなふうではないけど私たち

皆でハイポーズ



たちといっしょの間で何もないやなことをされませんでした。前までは障害者の人がいたらすぐくさけてたし、ひいてたりもしてしまいました。でも、これから、この交流をいかして障害者の人がいたらさけないで、ひかないようにします。あと、

車イス体験をした時足が不自由で歩けない人はこんなに大変な思いをしていたんだなあって実感しました。だから私は、車イスで困っている人を見かけたら、知らんぷりをしないで助けてあげようと思います。

落穂寮生、もちつきを体験!

昨年十二月十日に、石部町日赤奉仕団の方二十五名がもちつき奉仕に来て下さいました。当日は曇り空で少々肌寒い日でしたが、どんとで暖をとりながら、職員の方の介助のもと、重い杵をふりかざして、おもちつきを体験。どの寮生さんも腰が引けてなかなか上手にはいきませんでした。



たが、奉仕団の方々の声援を受けてそれぞれが楽しんで取り組めていました。つきあがりをする丸めてもらい、きな粉餅、おろし餅、あんこ餅にして、皆でおいしく頂きました。ありがとうございました。

めでたく初灯の出?!



昨年十二月十三日に、NEC労働組合の皆さんが、蛍光灯の交換に来て下さいました。一年前に交換して頂いた時には、眩しいぐらいの光を照らしていたのが、徐々に暗くなっていたのにも気が付かず、全くつかなくなつて初めて、それまで頑張つて働いてくれたことに感謝するといふ不心得な私達に、再び眩しい光をもたらして下さいる方々に深く感謝する一日です。これからの一年もまた、よろしく御願致します。ありがとうございました。

泉

▽落穂寮が改築されて四年、成人施設に移行して三年が経ちました。建物は時間と共にかなりの早さで壊れていき、既に修理が必要などころもいくつか存在します。しかし、その反面、この生活環境に慣れてきたのか、職員の対応に融通（悪く言えば怠けかな？）がきくようになってきたのか、寮生さんは当時に比べ落ち着いてきたように思います。無理をさせない、負担をかけない：とても大切なことかもしれません。環境の変化に適応するのが難しいのも事実です。ただ、彼等の将来を真剣に考えたとき、職員として何か忘れていたのではと自問自答の日々が続いています。

木言

手入れをすると大きく育つものもあれば、何もしないほうが大きく育つものもある。全てが同じものとは限らない。大切なのは、じっくり腰を据えて、よく観てあげること。しゃべらなくても、必ず何かが見えてくるはず。その時、しっかりとかわることで、ちゃんと応えてくれるはず。